

■技術の概要

- ①単に動体をAIで検知するだけでなく生成AIの画像解析によって動物種別の識別が可能
- ②現場でリアルタイムで検知し、大音量アラートを作動させることで事故や被害を予防
- ③検知画像や位置情報を関係者に通知し、検知情報をクラウド等に保存し、一元管理することが可能

技術の特徴

定点カメラやドローン搭載カメラの映像を転送し、AIが即時に解析することで、遭難者や被災者、動物の早期発見につながります。熱赤外線カメラを活用することで、昼夜を問わない搜索や、管理者や警察へ通知する仕組みも構築できます。



物陰に隠れた状態や指、頭といった部分的な情報でも人間を検知

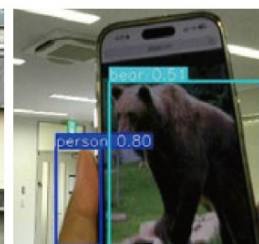
物陰に隠れた状態でも人間を検知することができます。
150m離れた場所でも検知可能です。

複数種別を判断することができる

スマホのクマ画像でもクマを検知し、スマホを持つ指は人間として検知します。



▲150m離れた人間を検知
※現地状況による



▲スマホ画像からクマを検知し、指から人間を検知

LIVE画像をAIに転送し、自動で被災者やクマなど通知



写真や位置情報を共有し、救援対応をサポート

【特徴】

検知・通知だけでなく、カメラ画像からAIにより不審者やクマなどの獣を検知した場合に大音量スピーカー付きパトランプが作動し、近接抑止させる。

これにより、作業員の迅速な退避・注意喚起などの初動対応を可能にする。